

竜ヶ崎ロータリークラブ

Weekly Report

「Visible&Invisible」

山中宣明 / 公益社団法人二科会
茨城県美術展覧会
委員長



本日のロータリー・ソング 「奉仕の理想」

奉仕の理想に
集いし友よ
御国に捧げむ
我等のなりわい
望むは世界の
久遠の平和
めぐる歯車
いや輝きて
永久に栄えよ
我等のロータリー



◆ 本日のプログラム ◆

祝事 米山月間（米山委員会）

◆ 今後の予定 ◆

- 10/8プログラム クラブ協議会② 夜間例会
- 10/22プログラム 外部卓話

- 10/15プログラム 職業奉仕月間につき委員長卓話
- 10/29プログラム ガバナー公式訪問

◆◆◆ 例会記録 2013年9月24日(火) くもり ◆◆◆

点 鐘 杉野会長

ロータリー・ソング それでこそロータリー

ゲスト 佐々木俊弥さん（スローフードすぎなみTOKYO）

出席報告 金子委員長

会員数	出席数	出席率	出席免除	先週の訂正出席率
38名	31名	81.58%	1名※2	89.47%

※1：クラブ定款第9条第3節 ※2：クラブ細則第11条

欠席 秋田さん 石嶋さん 小野瀬さん 毛利さん
菊地さん 服部さん ※2 波多野さん

メイク・アップ

金子さん（龍ヶ崎中央RC）

会長報告

新会員の櫻井さん、ようこそいらっしゃいました。こちらに赴任中はお互い精一杯、交流を深めていきましょう。宜しくお願いします。

先週は、個人的には10年に一度の税務調査が入り、非常に辛いタフな長い長い一週間でした。

そのご褒美でしょうか、以前もらっていた9月22日の巨人戦のチケットで60にして初めてジャイアンツの胴上げを生で見る事が出来ました。

最近は本当に何十年に一度の事が多くありますね。

それでは報告事項として
・ガバナー・エレクト事務所開設の案内が来ております。
開設日 9月11日(水)
場所

〒317-0074

日立市旭町2-6-13 ホテル天地閣2F

TEL 0294-33-7874 FAX 0294-33-7875

来年の今頃には他人事ではないですので、全員協力体制でお願いします。

10/8はクラブ協議会
(ガバナー公式訪問対応)
17:30~ クラブ協議会
18:30~ 夜間例会及び、
新会員歓迎会 (場所:松泉閣)

幹事報告

報告はございません。

委員会報告

- ・田坂社会奉仕委員長：今年度も「ふれあい広場」バザー出展に参加します。開催日 10月20日(日)
皆様の品物出展をお願いします。次週より例会場又は自宅に品物を持って来て下さい。よろしく願います。(電話を頂ければ取りに伺います)

プログラム内容 外部卓話 佐々木俊弥さん

点 鐘 杉野会長

会長 杉野 訓男

幹事 八木 徹

SAA 山崎 恭弘

例会日：火曜日 12:30~13:30 例会場：〒301-0011 龍ヶ崎市横町4209 常陽銀行竜崎支店2階
竜ヶ崎ロータリー・クラブ (R1第2820地区第7分区) 創立1959年11月25日

E-mail: starall@beige.ocn.ne.jp ☎090-3335-7349 ホームページ <http://ryugasaki-rc.org/>
スポンサー・クラブ：土浦ロータリー・クラブ 姉妹クラブ：仙台東ロータリー・クラブ

外部卓話

スローフードと生物多様性から探る持続的社會



スローフードジャパン副会長
スローフードすぎなみTOKYO代表 佐々木 俊弥 さん

1963年 東京生まれ
早稲田大学大学院にてロシア文学修士課程を修了
詩を書き「雨のまち」「Metamorphose1996」を自費出版。
また、詩書画家でもある。

こちらのロータリー・クラブの昼間の例会にお招きいただいたのは2度目になります。前回は、2008年10月21日、リーマンショックから1ヵ月後でした。

あの時期、世界的に経済システムが麻痺し、食の分野にも大きな影響を与えました。世界的に小麦の価格が高騰し、パンを買えない新興国の住民が暴動を起こしたりしました。そういうリスクはいまも私たちの背中合わせにあって、なぜそういうことが起こるのか、私たちにとって持続的な食と暮らしのあり方とはどんなものなのかということを経験単位で考え、世界の仲間たちと共有していくというのがスローフード運動の根本的な理念です。

スローフード協会は1989年に北イタリアのブラという街で発足した国際的なNPO団体です。現在、世界150ヶ国に広がり、約10万人の会員がいます。日本にも47支部があり、約1,000人のメンバーがいます。その交通整理機関としてNPOスローフードジャパンがあり、2004年に発足しております。

スローフード協会の発足を導いた大きな2つの出来事が1986年にありました。

- ①ローマのスペイン広場横にイタリアでマクドナルド第1号店がオープン、その後、瞬く間にイタリア中に店舗が増え、地域の伝統料理が急速に失われていくきっかけとなりました。
ちなみに、日本に最初のマクドナルドのお店がオープンしたのが1971年、イタリアより15年早く、ファストフードの波を浴びていたこととなります。
- ②イタリアの複数のワイン関連業者が、ワインに塗料用のメチルアルコールを混入させ、19人が死亡、15人が視力を失うという、大事件が起きました。当時、イタリアのワインは消費拡大を目指して無茶な増産体制からワインの生産を行い、そのひずみが出たといえます。この事件をきっかけにイタリアワインは国際的信用を失い、輸出がしばらく差し止められました。

スローフード協会の創設者たちは、生産システムそのものは実は表面上の問題なのではないか、もっと根本には今日、私たちが求められているスピードと効率性、これらに追いつかれていく結果起こってしまった事件ではないか、と考えました。スピードと効率に追われるビジネスとライフスタイル、それで私たちの人生はほんとうに「幸せ」なのだろうか、地域や環境にダメージを与えながら生きる生き方、作られる社会にほんとうに希望はあるのだろうか。本来、私たちの暮らしのリズム、誠実に作られる食べ物は、もっとゆっくりと時間をかけながら受け継がれてきたのではないだろうか。そこをこそ、私たちは見直していくべきなのではないか、という深いところを問題視した結果、作られたのがスローフード協会です。そうした、根本の深いところを見つめた運動だからこそ世界中の共感を得、国境を越えて広がっていったのだと思われまふ。

創設者にして現在も協会会長であるカルロ・ペトリーニ氏は、今年2013年、国連が選んだ「地球環境に取り組む王者」7人の一人に選ばれています。2008年には英ガーディアン紙が選んだ「地球を救う50人」の一人にも選ばれています。

スローフード協会が行っている活動内容は、主に以下の4点になります。

- ・メンバー間のネットワーク（国内はもとより、国境を超えたつながりを広げる）
- ・食と、味覚の教育（消費者の意識を高める）

- ・生物多様性の保護（種や産品を守るだけでなく、それを可能にした環境の保全も目指す）
- ・テッラ・マードレ・ネットワーク（生産者同士、シェフ、研究者、消費者などのつながりを演出する）

テッラ・マードレというのはイタリア語で「母なる大地」という意味で、2004年から2年に一度、イタリアのトリノ市で開催されている「世界生産者会議」です。世界中の、伝統的・持続的な農業や畜産業、加工品づくりに携わる生産者が5,000人規模で集結し、国境を超えたつながりを確認し、交流し合うイベントです。

上記4つの活動内容のうち、スローフード協会がここ数年、特に力を入れているのが「生物多様性の保護」であると言えます。

生物多様性という言葉は、動物、魚類、植物、昆虫など範囲が広い反面、外来種が繁殖しすぎて在来種が駆逐されてしまうことをどう防ぐかといったテーマや、先進国と新興国との利権の争いなど、政治的な争点も生んだりしています。

実は、種類が劇的に減っているのは食物の分野で、スローフード協会は穀物、野菜、果物、家畜、魚など食の分野で急速に進んでいる種の消滅を食い止めるべく、世界ネットワークのなかで「味の箱舟」という絶滅危惧の地域産品をリストアップし、それを経済的に援助し自立的に流通できるよう支援する「プレシディア」というプロジェクトを動かしています。

アイルランド系アメリカ人は、アメリカ3億人の人口の約12%（3,600万人）いるとされています。彼らの祖先は、なぜ祖国アイルランドを捨てアメリカに移住したのでしょうか？

その背景には、アイルランドを1845年～1849年にかけて襲った「ジャガイモ飢饉」があります。

19世紀はじめ、イングランドによって土地を奪われたアイルランド人は、小作農にならざるを得ませんでした。主に麦を栽培していた小作農家たちは、地主に納めなくてもよいジャガイモの栽培を始め、農民たちの唯一の食料となっていきました。

ところが、1845年から4年間にわたってヨーロッパ全域でジャガイモの疫病が大発生し、壊滅的な被害を受けました。

当時のアイルランドでは、収量の多い品種に偏って栽培がされており、遺伝的多様性がほとんどなかったため、菌の感染に耐え得るジャガイモがなく、国中に広がってしまったのです。

食べるものを失ったアイルランド人たちは、まさに食うや食わずで新天地を求め、アメリカに旅立ったのです。

ここには重要な教訓が潜んでいます。ジャガイモ原産地のアンデス地方では、ひとつの畑にいくつもの品種を混ぜて栽培する習慣が伝統的に存在し、これが特定の病原菌の蔓延による飢饉を防いでいきました。

つまり、同じ種のもは、一度病気に罹ると広がりやすい。種の違い（多様性）が、病気の蔓延を水際で食い止める有効な手段ということになります。

たとえば、コイヘルペス（2003年）が霞ヶ浦で発生し、大変な被害を与えましたが、コイヘルペスウイルス病はマゴイとニシキゴイに感染する病気で、他のコイには発生しません。

また口蹄疫が2010年、宮崎県で深刻な被害を与えましたが、なぜあそこまで広がったかといえば、単一種の牛に一気に広がったという側面が否定できません。

2006年頃から、全世界的にミツバチの大量変死が起こっています。これも主にセイヨウミツバチに顕著に起こっており、他のミツバチには起こっていません。

「もしハチが地球上からいなくなると、人間は4年以上は生きることができない。ハチがいなくなると受粉ができなくなり、そして植物がなくなり、そして人間がいなくなる」とアイアンシュタイン博士は言っており、ミツバチは、私たちの食を考えるとなくなてはならない存在です。

なぜ、セイヨウミツバチが大量に死ぬのか、その原因には諸説があり完全特定はされていま

せんが、農薬に使われるネオニコチノイドという成分がセイヨウミツバチの嗅覚を狂わせるのではないかとされています。EUでは、今年の12月から2年間、このネオニコチノイド系の農薬の使用禁止が決定されており、その結果が注目されています。

人類は、遺伝子組み換えの技術を手に入れました。農業や漁業などの一次産業は病気・疫病との闘いの繰り返しですが、それを科学で乗り越えようという動きがあります。

しかし、それで完全に病気・疫病が駆逐できるでしょうか？

私たち人間を含めた生物は、病気や疫病とも共存しながら、生物多様性を皆に生きていく……それが科学の発達した現代でも最も有効な手段であるというのが、スローフード協会が主張している点です。



テラ・マードレ



アジア・オセアニア会議



トルコの伝統食試食プレート



佐賀廿日山大根

10月の誕生日・奥様誕生日は次の方々です。

本人誕生：小島 孝行さん(1日) 沼野 晃広さん(5日) 毛利 昭男さん(19日)
 荒井 宏さん(19日)
結婚記念：毛利 昭男さん(10日) 八木 徹さん(28日) 山崎 恭弘さん(31日)
奥様誕生：寺田三枝子さん(16日)



お誕生日おめでとうございます。

ニコニコボックス

本日の合計

14件 ¥35,000

本年度累計

157件 ¥509,000

¥10,000

- ・小島さん 東京高等裁判所長官より永年調定委員として表彰を受けました。

¥5,000

- ・神山さん またまた、学会に論文を投稿致しました。
- ・杉野さん 先週は久々の税務調査があり身も心も疲れ果ててましたが、9/22に60にして初めて、生で巨人の優勝胴上げを見ました。いいご褒美でした。

¥2,000

- ・工藤さん 渡利先生、写真有難うございました。田坂さん、大変感謝の卓話有難うございました。

- ・佐伯さん 佐々木さんを歓迎して。
- ・櫻井さん 会報に載りました。
- ・山崎さん 坂本さんからお米をいただき有難うございます。私の所ではまだ出来てなくて昨年の米を食べています。

¥1,000

- ・荒井さん・倉沢さん・沼野さん・八木さん 坂本さんから新米を頂きました。有難うございました。
- ・岩田さん 早退します。
- ・野上さん 遅刻しました。
- ・真鍋さん 遅刻しました。

例会に欠席の方は当日午前10時までに副SAA柴田さん(☎0297-94-0771)に必ずご連絡ください。